

■講演②「AI とは何か～AI 時代に求められる教師のスキルとは」藤元 健太郎 氏 (D4DR 株式会社 代表取締役社長／コンサルタント)

●「バックキャストイング」で考える

世の中は大きく変化しており、10 年後の世界は全く違う社会となることを見越した上で、現在からの「積み上げ」ではなく、未来を見据えて今、何をすべきかを考える時代に入っており、10 年後の社会がどのようなになっているか見定める力が子どもたちにも必要ではないかとの見解を示され、バックキャストイングで考えることの重要性、また近い未来での展開の広がり、豊かさとスピードの速さについて説明を行っていただきました。

(编者注) バックキャストイング: 未来のあるべき姿から逆算して、その実現のための計画や現在行うべき事がらを思考すること

●未来にどんな人材が求められているのかの整理・説明

・経済産業省「未来人材ビジョン」の「これから求められる人材像」[20220531001-1.pdf](https://www.meti.go.jp/20220531001-1.pdf) ([meti.go.jp](https://www.meti.go.jp)) (P.20) (経済産業省のレポートに移動します。)なども示しながら、藤元氏の考える「これから必要なスキル」をご提案くださいました。

(藤元氏の考える「これから必要なスキル」)

知の探索力	・問いを立てられるか?、ハリネズミのアンテナ
未来洞察力	・バックキャストイング、妄想力、SFプロトタイピング
事業構想力	・エコシステム発想、市場創造、メタ認知能力
マーケティングセンス	・生活者視点、デザイン思考、UX (使い物になるか?)
プロデュース能力	・リソースマネジメント (人、金、アセット)
マネジメント力	・ワクワクさせる力、鈍感力
デジタルセンス	・ICTリテラシー、プログラム

●今の生成 AI ができること→そこから教員の仕事の効率化への提言

「生成 AI の今できること」の具体例を示しつつ、生成 AI のメリット・デメリットの解説がありました。

その上で、先生の仕事を可視化・言語化し、整理することのススメとして、先生方のお仕事一つ一つを「学ぶ(自身にインプットする)」「教える」「マネジメントする」「地域貢献する」の4つのカテゴリーに分けたうえで、「今後はAIが主体になる」「AIを活用することで高付加価値化する」と分類し、教員活動の効率化に関する提案がありました。

●変わりゆく未来において、学校・教員に求められる役割

これまでに説明してこられた現状や今後予測される変化等をもとに、各側面における「未来の教員に求められるもの」について藤元氏から以下のような仮説としてご提示いただきました。

「未来の学校の役割」「未来の教員に求められるもの（赤字）」

○教育→**コーチング，メンター，アドバイザー，カウンセラー，師匠**

- ・ 学び方や問いの立て方
- ・ 人間関係（対同級生，対大人，対下級生）
- ・ 集団行動
- ・ 生き方，人生プランの立て方（仕事，お金，恋愛，家族）

○共通体験→**イベントプロデューサー**

- ・ イベント（運動会，遠足，学芸会など）
- ・ 生活（共同生活）

○地域コモンズ→**地域プロデューサー**

- ・ 子供の居場所，家族以外の社会
- ・ 地域社会への貢献，子供達が地域課題の解決に直接関わる
- ・ ビジネスインキュベーション（働く子供達の時代）
- ・ 防犯，防災

→藤元氏が代表を務める D4DR 株式会社では、「バックキャストイング」で考えるワークショップ等も実施しており、参加の先生方からも「実際に使用したことがある」「興味が湧いた」と反響が大きいものでした。

学校でのワークショップ経験もお持ちで、生徒さんへカードを使用したワークショップ等も行っているとのことでした。

ご興味のある方はこちらも合わせてご覧ください。（下記 URL は、藤元氏が代表を務める D4DR 株式会社の Web サイトへ移動します。）

▼D4DR 株式会社 「未来コンセプトペディア」とは

<https://www.d4dr.jp/fcpedia/terms-of-service/about/>